

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和5年度第9回 理事会議事録

日時：令和5年9月25日（月）13:58-16:00

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、高橋 寛、田中 信弘、
筑田 博隆、永島 英樹、中村 雅也、西田 康太郎、根尾 昌志、橋爪 洋、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司

【議事の経過の要領及びその結果】

理事長・波呂浩孝が議長となり、開会を宣して議事に入った。

1. 理事長挨拶

前回の議事録の内容を振り返り、その後の進展を確認しつつ、審議に入った。

2. 審議・決議事項

①. 前回の議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

②. JSSR 関連学会授賞講演の E 理事会結果について

表題の件について、大正 Award（基礎1名、臨床1名）・JSR優秀論文賞（2名）・SSRR Best Paper Award（3名）の7名全員に講演してもらう案の投票が最多だったと報告し、投票数等の結果を示した。一同検討の結果承認した。大正Awardの講演・表彰をメインとし、他の受賞者の発表形式（ポスター発表も選択肢とする）、発表時間については会長に一任することになった。

③. 学会主導セッション演題について

波呂理事長が、第53回JSSR学術集会での学会主導研究セッション（90分）について、8テーマが案として挙げられていることを報告した。テーマ及び座長・演者候補は以下のとおり。

新技術評価検証委員会より：座長：金村理事

- ・OLIF51の合併症報告 演者：折田委員
- ・頰椎人工椎間板（2椎間）の市販後調査 演者：吉井委員
- ・椎体形成術について（OVFに対するPVPの導入、BKPの添付文書改訂） 演者：戸川委員
- ・仙腸関節固定術の適正使用基準について 演者：井上委員

データベース委員会より：座長：金村理事

- ・JSSR-DB年次報告 脊椎脊髄手術の疫学調査(2022年度) 演者：有馬委員長

プロジェクト委員会より：座長：橋爪理事

- ・「頸肩腕症に対する薬物治療の費用対効果研究」解析結果報告 演者：若尾委員
- ・「腰曲がりに対する運動療法の有効性の検証」解析結果報告 演者：寺井委員
- ・新規及び進行中プロジェクト研究の紹介 演者：海渡委員長

一同検討の結果、上記の8テーマを承認し、座長・演者は今後それぞれの委員会にて確定し、事務局から渡辺会長へ連絡する。また、具体的な時間配分等は会長に一任することになった。

④. 大正AWARD選考委員について

渡辺雅彦大正 AWARD 選考委員長から提案のあった次回の大正 AWARD 選考委員候補を承認した。

⑤. 定款等検討委員会：3つの規程の改訂案について

「学術集会規程」「認定脊椎脊髄外科指導医規程」「入会及び退会規程」の3つの改訂案及びそれぞれの新旧対照表を示した。

「学術集会規程」「入会及び退会規程」については、特に意見はなかった。

「認定脊椎脊髄外科指導医規程」については、数年後にはJOANRへの登録症例を使用することなどが追記される予定である。

追加の意見等があれば次回の理事会までに、根尾理事へ連絡する。

⑥. 学術集会プログラム等検討委員会：委員長の交代、委員追加について

例年通り委員長を前会長（種市洋評議員）から現会長（渡辺雅彦評議員）へ交代することと、会長予定者である山田宏評議員を委員へ追加することを承認した。

⑦. 新技術評価検証委員会：椎体形成術（BKP・VBS）デバイス トレーナー制度について

椎体形成術（BKP・VBS）デバイス トレーナー制度について、経緯と現在のトレーナー認定制度の詳細及び課題を説明した。今後の方針として

- ・学会認定のトレーナー制度の廃止
- ・各製品のトレーニングやトレーナーについては各企業が責任を持って行う
- ・学会（椎体形成 WG）としてはトレーニング方法の監修を行う

以上3点を提案し、一同検討の結果承認した。

⑧. JSR編集委員会：投稿サイト画面の変更費用、AIと適用外使用の記載の追加

上記を承認した。

⑨. 英文誌編集委員会：SSRR編集長交代について

委員会として千葉エディターインチーフ（EIC）の次のSSRR誌EICに川口委員を推薦した。一同承認

し、2024年1月から委嘱することになった。

また、来年の委員会委員の交代までの間、千葉現EICにはアドバイザーとして残ってもらうことも承認した。

千葉EICの退任にあたり、学会からなにか記念品を贈呈し総会で表彰することについても一同賛同し、記念品等については今後検討することとなった。

⑩. メンバーシップ・コンプライアンス委員会：会員審査（8月分）

8月の入退会について全員を承認した。

海外赴任が理由の退会希望者については、念のため西田理事が再確認する。

3. 審議・報告事項

①. 専門医制度委員会報告

以下3点を報告した。

1. 脊椎脊髄外科専門医については「カテゴリー1」となった。
2. 会員から専門医についての質問が多く寄せられているため、Q & Aを作成した。今後NSJとともに見直し等行ったのちに、理事会の審議事項とする予定である。
3. 本日審議された指導医規程の変更については、様々な変更があるため第53回JSSR学術集会のシンポジウムで1時間の枠を設けてもらった。専門医に関する説明（NSJと合同）と指導医に関してのアナウンスの二本立てで予定している。

②. 国際委員会報告

8月にインド・ニューデリーで開催された SPINE20 2023 summitへの参加に関する加藤委員と玉井委員からの報告書を提示するとともに、伊東理事がオンラインで参加した感想が述べられた。

来年のGlobal Spine Congressが5月にバンコクにて開催予定で、関係者3名はAOの関係で招かれているためJSSRからの旅費は不要である。JSSRからシンポジウムを1つ出してほしいとの希望が先方からあったので、様々な新規のテクノロジーについてシンポジウムを提案する予定としている。シンポジウムの内容は、JSSR側でテーマや演者などすべて決められる。

来年のSASについてはプロポーザルを出したところで、10月のNASSで検討が行われ、フィードバックをもらえる予定である。

コロナ収束以降、委員会活動が活発になり、国際委員会の旅費が増加している。出張した国の都合で追加経費がかかった場合や、様々な国際学会から招聘された場合等の方針を定めておくべきと提起した。「どの学会にどのような優先順位で資金・人的資本を投入するか」を国際委員会で検討して整理していくことになった。

③. 新技術評価検証委員会報告

BKPの添付文書改訂、経皮的椎体形成術 Conamon PVP キットの保険収載へ向けての今後の予定、既存のガイドライン・適正使用指針の名称統一などを報告した。

④. データベース委員会報告

9月5日現在で、JSSR-DB 2022年度登録数は158,794件である。2023年度の登録も始まっており、登録数は45,764件となっている。

2022年度のデータ固定を行い、年内には年次報告を作成予定。2024年1月以降にレジストリーに関しての英文論文を作成できる予定である。筆者はデータベースシステム構築に尽力した有馬委員長に依頼することを承認した。投稿先についてはメジャージャーナルに投稿することを承認した。本来投稿すべきSSRRの担当理事である筑田理事と次期EICの川口理事も賛成した。

JSSR-DBを利用した解析研究については様々な意見が出され、おおよそ以下の方向で意見の一致を見た。この解析研究を学会内のどこで行うかについては、データの管理が厳重でありその取り扱いに慣れが必要のため、まずはデータベース委員会内に様々な解析研究するWGを立ち上げて行う。その上で、将来的にはJSSR-DBを利用した解析研究の方向性を示しながら、JSSRの一般会員もJSSR-DBを利用した解析研究ができるようにしていく。現在日整会でJOANRの利用規約を作成中で、AWS（JOANRのデータベース）にアクセスするのにかかる費用が決まれば金村理事が報告する。かなりの額になるはずで、どの研究にどのように利用するか学会として方向性を定めていく必要がある。

⑤. 指導医制度委員会報告

2023年度の指導医新規申請・継続申請についての進捗と、2023年8月に開催したデータベース・指導医制度委員会合同会議の内容を報告した。特に、JSSR-DBと指導医申請の連携開始時期や項目について説明し、今後のロードマップを提示した。田中理事がざっと確認したところ現時点ではJSSR-DBの利用は3割程度である。

⑥. 広報委員会報告

ホームページの更新について報告した。また、ニュースレターのバナー広告は、現時点で応募がないため、締切を12月25日に延長予定である。役員各位からの企業への声掛けを依頼し、一同了解した。

⑦. 脊椎関連学会連携促進委員会報告

主にSWJ2025について現在までの進捗や決定事項を中心に報告した。

- ・SWJ2025全体のスローガン（テーマ） Together—共創と未来—
- ・目玉企画の演者とテーマ
- ・会長招宴や全員懇親会について
- ・一般演題の募集方法
- ・SWJ2025の収支予測
- ・海外演者の招聘について

特に合同及び個別（希望学会のみ）の会長招宴について、多くの質問、意見が出され今後さらに検討していくことになった。

⑧. 用語委員会報告

大鳥理事が、今回の改訂に向けての進捗や新規用語の採用基準等を報告した。

- ・新規用語、不要用語の検討
- ・新規は50用語位を目途
- ・今後の解説文、図作成に際しては、2人のペアで作成などが述べられた。

⑨. その他の委員会報告委員会

プロジェクト委員会：症例登録の進捗

現在進めているプロジェクト各種について進捗を報告した。新たなプロジェクトは前回理事会報告をした2つであるが、現在実施案を作成中である。

社会保険等システム検討委員会：恒例の社保アンケートの実施について

社会保険改訂へむけて、2年に1度行っている社保委員会からのアンケートについて、例年通り実施を予定している。

⑩. その他

・JOAより

JSSR指導医の新規申請要件からJOAの脊椎脊髄病医資格取得が外れることを、JOAに持ち帰り相談したが、特に脊椎脊髄病委員会でも理事会でも異論はなかった。

JSSRからJOAへ依頼したサブスペシャリティ（脊椎脊髄外科専門医）についての、全国の整形外科医局等への周知の件は、JOA執行部で周知方法について検討することになった。

・日整会シンポジウムのための情報提供

2024年の日整会総会において「サブスペシャリティ学会における女性リーダー育成」についての講演を予定している上里涼子医師（青森県立あすなろ療育福祉センター）に、個人情報を含まない範囲でのJSSRの学会員数や女性会員数の開示を予定している。発表内容は事前にJSSR宛に報告いただく予定で上里医師から快諾いただいている。

・日整会総会シンポジウム募集の件

毎年依頼のある日整会総会シンポジウムの募集に関するメールが届いたので、この理事会後に理事会各位から案を募集したい。

・次回の理事会開催日：10月19日（木）11：30-13：30

つくば国際会議場3階特別会議室302（日整会基礎学術集会会場）にて。

以上

令和5年9月25日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三